

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」(H18-特別-指定-035)概要

目的: 今後の歯科医師臨床研修制度の運用、改善に向けた基礎的資料収集。

対象: 臨床研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型研修施設および臨床研修プログラム

調査項目: 研修内容・研修効果、研修歯科医のメンタルヘルス、研修歯科医の分布状況、中断・休止・再開事例の検討および歯科大学・歯学部附属病院のない府県における臨床研修施設および研修歯科医に対する聴き取り調査 ※倫理面への配慮については報告書を参照

結果

1. 研修内容

研修方式: 群方式: 60%、単独方式: 40% 研修期間: 1 年間 95.4% 2 年間 4.6%

公私立大学附属病院 63.3%、国立大学附属病院 22.2%+5.2%

研修歯科医 694 名 単独・管理型 92 施設 協力型施設 309 施設

【到達目標への到達度】

基本習熟コース

回答者	ユニット	医療面接	総合診療計画	予防・治療基本技術	応急処置	高頻度治療	医療管理地域医療
研修歯科医	平均到達度	86.9%	81.3%	83.2%	69.8%	76.7%	74.1%
管理・単独型	重要視度	74.1%	69.8%	71.0%	64.1%	67.3%	55.5%
協力型施設	重要視度	66.0%	64.5%	58.6%	58.4%	64.5%	56.2%

基本習得コース

回答者	ユニット	救急処置	医療安全感染予防	医療評価管理	予防・治療技術	医療管理	地域医療
研修歯科医	平均到達度	61.8%	78.3%	80.1%	74.1%	77.0%	63.5%
管理・単独型	重要視度	71.0%	74.0%	43.0%	49.5%	53.4%	31.2%
協力型施設	重要視度	48.5%	58.5%	57.0%	43.9%	55.5%	35.2%

【すべての研修を 100%としたときの研修内容の内訳】

回答者	座学	実習	見学	アシスト	自験	その他
研修歯科医	9	11	17	29	32	2
単独・管理型施設	10	17	15	21	35	2
協力型施設	10	24	21	25	18	1

【適切な研修期間】

回答者	1 年間	2 年間	その他
研修歯科医	70.6%	20.6%	8.8%
管理・単独型施設	35.5%	61.3%	3.2%
協力型施設	59.0%	38.4%	2.6%

【適切な協力型研修施設での研修期間】(回答者: 協力型)

3 ヶ月	6 ヶ月	1 年	その他
9.0%	45.8%	35.8%	9.4%

【評価方法】

研修歯科医	研修歯科医 手帳(57.1%)	ポートフォリオ (56.1)	症例検討会 (36.7)	観察記録(24.9) DEBUT(22.3)	レポート (20.7)	口頭試問(14.0)
単独・管理型施設	症例検討会 (64.5)	研修歯科医 手帳(60.2)	レポート (44.1)	口頭試問 (40.9)	観察記録 (38.7)	ポートフォリオ (19.4)
協力型施設	口頭試問 (69.0)	研修歯科医 手帳(61.9)	観察記録 (42.3)	レポート (40.0)	症例検討会 (36.1)	ポートフォリオ (27.4)

【評価の適性度】

研修歯科医は	満足している	不満である	どちらとも言えない
	43.6%	15%	41.4%

【歯科医師としての資質の向上への貢献度】

回答者	貢献した	少しは貢献した
研修歯科医	39.4%	41.6%
管理型・単独型	43.0%	44.1%
協力型	38.4%	45.5%

【研修歯科医が望むこと】

(管理型・単独型施設へ)①指導医の資質の向上、増員 ②給与の増額、交通費の支給 ③患者数増加 ④プログラムの充実

(協力型施設へ)①指導医のレベルアップ ②自験例の増加 ③施設間格差の是正 ④研修内容の充実

(国へ) ①給与の増額か、アルバイトの許容 ②保険点数の増点 ③協力型施設の拡充 ④本制度の是非

【管理型・単独型施設が望むこと】

(研修歯科医へ) ①積極性 ②医療人としてのマナー

(協力型施設へ) ①診療機会の増加

(国へ) ①研修期間の延長 ②補助金の増額 ③事務手続きの簡素化

【協力型施設が望むこと】

(研修歯科医へ) ①研修歯科医としての自覚 ②積極性 ③コミュニケーション能力の向上

(管理型施設へ) ①卒前・初期研修の充実 ②マッチング ③情報提供 ④受け入れ期間と時期

(国へ) ①補助金の増額 ②医科との格差是正 ③本制度の是非 ④事務手続きの簡素化

2. 研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査

【簡易職業性ストレス評価票(57項目)】 健康リスク:102.83 標準的な集団とほぼ等しい。

【抑うつ状態自己評価尺度(20項目)】 平均 17.06±10.58

総回答者数:638名(全研修歯科医の24.1%)の内訳と健康リスクおよびCES-Dの結果一覧

	回答者数	健康リスク (※参考値)	抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)				
			最 高	最 低	平 均	SD	16点以上の 研修歯科医数
大学病院(管)+診療所(協)	309(48.4%)	103.24	60	0	17.81	10.55	145名(46.9%)
歯科大病院(単)	183(28.7%)	78.72	60	0	15.34	10.54	67名(36.6%)
大学病院(管)+病院歯科(協)	73(11.4%)	98.79	44	1	16.82	9.30	38名(52.1%)
病院口腔外科(単)	47(7.4%)	100.43	59	1	17.43	12.61	26名(55.3%)
一般病院歯科(単)	12(1.9%)	134.40※	37	5	22.58	9.43	10名(83.3%)
一般病院歯科(管)+診療所(協)	5(0.8%)	95.23※	24	9	17.75	7.50	2名(40%)
病院口腔外科(管)+診療所(協)	2(0.3%)	63.24※	26	10	18.0	11.31	1名(50%)
診療所(管)+診療所(協)	1(0.2%)	136.88※	-	-	13	-	
その他	6(0.9%)	111.86※	32	2	20.16	11.87	4名(66.7%)
	全体で評価 した場合	102.83	60	0	17.06	10.58	293名(45.9%)

評価時期の影響を考慮・・・経時的調査の必要性

研修済み(または予定)研修施設数

単独型	234(36.7%)
1施設	286(44.8%)
2施設	106(16.6%)
3施設以上	12(1.9%)

3. 研修歯科医の分布等に関する研究(報告書 P.69-79 参照)

研修歯科医総数:2645名

臨床研修実施率:99.0%

都道府県ごと月平均分布 最大 東京都 432.8名 最小 高知県 2.5名

休止例 12(病休7例、出産3例)、中断例16、再開例4 (平成19年1月現在)

○臨床研修施設群方式により研修歯科医の分散化が図られている。

○研修歯科医の受け入れキャパシティは概ね充足されていると考えられるが、地域格差が大きい。

○最終段階での、中断例、未修了例等の調査が必要(次年度で継続調査)

4. 臨床研修施設および研修歯科医に対する聴き取り調査(報告書 P.80-86 参照)

対象:13施設(表1、P.81) 聴取した意見のまとめ(表2、3、P.84-86)